

北斗市の地域公共交通に係る現況と問題点（ヒアリング調査等から）

【北斗市全体】

- 近年、全域で人口減少と高齢化が進行している
- 国道228号線沿いの浜分地区・久根別地区から上磯駅周辺地区、旧大野町本町地区、国道227号線沿いの萩野・島川地区が人口が多い
- 免許保有率は全体で64%、75歳以上では28%である
- 函館市へは、通勤は40%、通学は57%、通院49%、買い物45%である
- 公共交通移動割合は6%強で変わらず、自動車利用は70%弱に増えている
- 学校、病院、スーパー、公共施設は、国道228号線沿いと大野地区に集中している

【その他の事業者等ヒアリングから】

【現況について】

- 公共交通（鉄道やバス）の便が悪いために、送迎が必要となっている
- 利用者の目的に合わせて、送迎などの工夫をされている
- 南北バスは、通学に利用されているが、他の目的とはうまくマッチしていない
- 交通空白地を含め、利用者の公共交通へのニーズはそれなりにある

【気になるところ】

- 提供されている、鉄道、バスサービスと、利用者ニーズに少し乖離が見える
- 目的に合わせた公共交通サービス、及び情報提供がうまくいっていない
- 自家用車利用（送迎も含めて）から公共交通への転換は容易ではない

【交通事業者ヒアリングから（サービス提供側）】

【現況について】

- コロナ禍で利用者・売り上げ減であったが、徐々に回復傾向にある
- 鉄道やバスが、北斗市から函館市への通勤・通学目的の広域移動を担っている
- 市内交通について、現状では鉄道、バス、タクシーの役割、方向性が見えにくい
- 利用促進策について積極的であり、沿線地域との連携した取り組みも多い

【気になるところ】

- 十分な努力はされているものの、市民ニーズと提供サービスとのマッチングが図られていない
- 函館都市圏、及び北斗市内での移動ニーズにどこまで対応が可能か
- 行政と交通事業者との情報共有や連携がどこまで図られているか

北斗市の地域公共交通に係る現況と問題点（アンケート調査から）

【一般向けアンケート:16歳以上の一般市民500名を対象、回収率は46.8%】

- 居住地からバス停まで徒歩時分が10分未満が67.7%、3割以上の方がバス停から10分以上の居住地である。バス停から居住地までの徒歩時分は10分未満を希望する方が64.2%いる
- 運転が困難になった場合、バス利用をするが32.5%と、バスへの依存が高い(鉄道を利用するは5.4%、タクシーを利用するは11.3%)
- 通勤・通学の交通手段は82.8%が、自分の運転による自動車である
- 買い物については、45.6%が週に2日以上、週に1回が28.5%。買い物先(複数回答可)は北斗市が95.9%、函館市が38.4%。買い物に行く曜日は週末は必ず行く方が多い(土曜日20.7%、日曜日24.8%)。一方で、特に曜日を決めていない方が63.6%いる。買い物先に到着する時間は、9時～11時台が32.6%で最も多く、比較的早い時間帯に買い物をする方が多い
- 通院については、月に1回が30.8%、数か月に1回が18.6%。通院先(複数回答可)は北斗市が54.6%、函館市が64.6%。通院先に到着する時間は、9時～11時台が67.5%と午前中に集中している
- バスの利用頻度は2週間に1回以上が5%、鉄道は2週間に1回以上が2.8%、タクシーは2週間に1回以上が2.7%
- 公共共通に対して、利用したい時間帯に運行してほしいと希望している方の中で、9時台・10時台の運行を望む声が多い

【一般向けアンケート:高齢者運転免許証自主返納支援事業利用者311名を対象、回収率は63.6%】

- 免許返納時の年齢は70代が50%で、80代以上が約50%
- 免許返納の理由は、家族・知人に勧められてが34.7%、運転の自信がなくなったが24.5%
- 買い物の移動手段は徒歩25.9%、自転車9.0%と近隣で済ませられる方が一定数ある一方、33.9%は家族等の運転によって自動車利用をしている
- 通院の移動手段では、家族等の運転による自動車利用34.8%、タクシー利用が22.2%と高い
- バスの利用頻度は2週間に1回以上が22.7%、鉄道は2週間に1回以上が7.5%、タクシーは2週間に1回以上が28.7%。一般向けアンケートに比べて、タクシー利用が大きく増え、バス利用も増える
- 免許返納後、56%の方が外出頻度が減ったという

北斗市の地域公共交通に係る現況と問題点

【住民意見交換会から(利用者ニーズの集約)】

【公共交通について】

- 買い物等、生活移動は市内の移動が多いが交通の便に不安がある
- 通勤、通学は函館市への移動が多いが公共交通のサービス内容に不満がある
- 市内でも上磯までは公共交通の便が良いが、茂辺地、当別は交通の便が悪い
- 公共交通を利用するにはバス停が足りない、バス停までの距離が遠い
- 公共交通の情報(バス路線、時刻表等)が分かりにくい

【移動手段について】

- 買い物は自家用車で、自家用車の無い人は徒歩で行く
- 高校生の送迎に自家用車利用が多い
- 病院送迎や移動販売等の利用者が増えている
- 高齢者ばかりになるので、分かりやすく乗りやすく、小さい車両でよい
- 隣同士が遠いので、曜日運行、ワゴンタイプが良い
- 時代とともに地域によってニーズが変わる。ニーズに当てはめて組み合わせると、コミュニティバスが必要になるのでは
- タクシー料金が高いとの不満はあるも、荷物がある時などに利用されている。タクシー助成も使われている
- 移動手段がない人のために、自治会や隣近所などが支えている

【免許返納について】

- 免許がなくなった後どうするか、不安だ。温泉や買い物に行けなくなる。一緒に行っていた人もいけない
- 高齢者の運転は不安だが、免許返納した後の生活に不安があるために返納できない

調査結果を踏まえた現況と問題点等のまとめ

【北斗市全体】

市内全域で人口減少と高齢化が進行

自家用車利用者が多く、公共交通利用者が減少

公共交通(鉄道、バス)への補助金は約3,500万円

【市内外の公共交通について】

函館市内との公共交通のサービス内容が不満

南北バスは、利用者数が微増、収支率は減少

市内の鉄道、バス、タクシー等、移動手段の役割が不明確

【市内の移動手段について】

郊外部に交通の便がない

市内の生活移動に係る交通の便が不安

市内に公共交通以外の移動手段は多い

【公共交通の利用について】

公共交通の情報が分かりにくい

公共交通に対する市民の意識が低い

課題の設定(案)

既存公共交通の利便性の向上

函館市内とのアクセスの強化

地区の実情や利用者ニーズに対応した市内公共交通サービスの提供

分かりやすい公共交通サービスの提供

潜在需要の掘り起こし

公共交通の維持・存続に向けた市民の意識啓発